

第6回 大田区基本構想審議会第1部会 議事要旨

日時	平成 20 年 1 月 17 日 (木) 午前 10 時 ~ 12 時
会場	大田区役所 201 会議室
出席者	中井委員 (部会長)、奥田委員、田中 (常) 委員、千原委員、富田委員、舟久保委員、星野委員 (五十音順)

1 開会

2 配付資料の説明

3 審議

- ・ 第一に、いろいろ議論してきたことを短いフレーズにまとめなければならない。目標 (キャッチフレーズ) に入れられなかったことは説明文に入れることも可能である。第二に、基本的なこと、当然書いていなければならないことばかりになると、どの自治体でも同じ内容になる。それを押さえながらも、大田区としての特徴、尖ったところを入れなければならない。抑えるべきは抑え、ところどころに大田区らしさが入る、というのが基本的なイメージだ。第三に、区民との意見交換会では安全・安心について多くの意見が出た。部会でも議論していることなので、どこかに安全・安心を明確に言う必要があると思う。最後に、言葉遣いは、基本目標は「~のまち」、個別目標は「~します」「~つくりまします」とする。
- ・ 区民との意見交換会を踏まえて案をつくった。基本目標は高齢者・障がい者らへの配慮も含め、「未来を育む暮らしが実現するまち」とした。まちづくり分野については、自然環境を大事にすることと、安全・安心について配慮し、「大田の水と緑を大事にし、安全・安心な暮らしを実現します」とした。他の個別目標では産業の側面が強いので、暮らしを強調したものとした。羽田・臨海部分野については、ウォーターフロント一帯で国際交流拠点都市とすることと、人と情報が行き来するという意味合いを含め、「首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります」とした。産業分野については、ものづくりのルーツを大事にする、創造、大田ブランド、といったことを盛り込んで「世界の『ものづくり創造都市 大田』を地域で支え、大田ブランドを広げます」とした。
- ・ 基本目標は、どういうまちにしたいのかというイメージが出てくるべきだと思う。「グローバル・テクノポリス」「技術・技能の集積」「国際性」「クリエイティブ・クラス」等を想起させる言葉があればよいと考え、「国際産業都

市」とした。さらに人の視線があるので、「人にやさしい、人がやさしい国際産業都市」とした。まちづくり分野については、安全・安心に快適な環境が実現すること、それに男女や高齢者、ハンディキャップのある人、外国人を含むという意味を含め、「すべての人の、安全、安心、快適な生活環境を実現する」とした。「人がやさしい」は開放性・寛容性など、コミュニティが変わることを意識したものだ。羽田・臨海部分野については、臨空・親水の立地を活かして、好みのライフスタイルを実現すること、多様性と国際性にこの立地を活かすことを表現し、「水辺の自然環境と羽田空港の国際性を活かす」とした。産業分野については、ものづくり技術の集積と創意工夫の風土を基盤として、独自の産業と同時に都市文化を育てることが大事と考え、「モノづくりから未来へ独自の産業と都市文化を創造する」とした。産業や都市の機能に関わることと、人に関わることの双方を出していきたい。

- ・ 都市基盤と産業がテーマなので、基本目標は具体的なものがないと考え、「まちの魅力と産業技術が輝くまち」とした。基本目標と個別目標のバランスをどうとるのが悩ましい。
- ・ 基本目標案として、「国際産業交流」が大田区にぴったりだ。「まちの魅力と産業技術が輝く国際産業交流都市」がいいのではないか。国際性、産業が育ったところ、交流、といったエッセンスが表現されている。まちづくり分野では、安心・安全を必要十分条件として入れるとしても、基本構想の20年を考えるともう一つ欲しいところだ。アートという言葉を入れなくても、「安心・安全、人々に潤いと活力を与える」といった、アートを取り入れる理由が盛り込まれればいい。
- ・ 「大田ブランド」は個別の事業というか、グループとして既にあるものである。それを区の目標とするのは適切なのだろうか。
- ・ 地域ブランドの推進という観点で実施しているので、問題ないと思う。ただ、「俺が大田ブランドだ」という人もいるだろうから、その辺りは難しい。
- ・ 「産業」という言葉には農林漁業・工業・商業などを含む。「ものづくり」は工業そのものになる。商業的な意味が含ませられるのだろうか。大田区は工業のまちだと言い切って構わないのかという心配はある。
- ・ 東京という観点からは、ビジネスなら千代田区・港区、国際交流ならコンベンションホールのある江東区のイメージが強い。その中で大田区を特徴付けるなら工業ではないか。また城東の工業とも違う。しかし今の大田を支えている人たちは工業だが、高齢化や後継者不足の現状を考えると、20年先はどうなるのか。大田区のような基盤工業をつくり上げるには、1人の人間が20年ぐらい年季を入れなければならない。強い表現を込めないと、書いただけでそうなるとは言えない。意見交換会でも出た今日的なリクエストを満たそ

うとすると区の財政は持たない。豊かな町をつくらないとならない。書けば実現するような表現ではなく、「築く」「つくる」といった能動的な言葉を使うべき。

- ・ 能動的表現が、これこそ大田区という尖った表現になる。能動的な表現にしないと平板になる。具体的な施策ができるような指針ができたらいいとは思いますが、後は表現方法の工夫ではないか。
- ・ 「世界のものづくり都市 大田を地域で支え、大田ブランドを創ります」という感じで意気込みを示してはどうか。「広げます」では既に定着している印象になる。また、ものづくりは商業からも展開できる。
- ・ 「ものづくり」と一言言うが、その中身は技能や技術の集積や、創意工夫する風土である。何かの製品をつくるというまちではない。そういうものを基盤として独自の産業や文化を創るということに展開しないと、ものづくりといっても何するのということになってしまう。
- ・ 工業、ものづくりの側面が強調されているが、これからの大田区は観光産業や商業の視点も入れるべき。商業で生活されている区民も多いので、これを全く欠落させるのは問題。何らか表現しないといけない。「最高水準の技術で世界のものづくりをリードし、商店街のにぎわいを創ります」などといったことを盛り込む必要があるのではないか。
- ・ 経済産業省の予算要求書では「イノベーション」などの言葉が踊っている。ナノ（テクノロジー）やライフサイエンスに力を入れる、といったことは高度な試験研究機関がやればいいが、それが暮らしに反映されるには大田区のようなところが活かされなければならない。そういったことを出したい。
- ・ 「世界のものづくり都市」というと大きすぎる。「産業都市大田を創る」など、商業をあわせた表現にしてはどうか。「産業都市大田を支え、大田ブランドを創ります」といった方が、現実的ではないか。
- ・ 国際性は産業に不可欠。グローバル展開は意識した方がいい。
- ・ 「大田ブランド推進協議会」があるから「大田ブランド」は使えないというなら、「大田『の』ブランド」とすれば差し支えないのでは。
- ・ 大田ブランド推進協議会の活動は個々の企業の応援ではなく、地域ブランド全体を高めることであり、問題ないのではないか。ただ、「大田ブランド」というと、特定のことを指すという誤解を受けるという問題はある。
- ・ 様々なキーワードを、基本目標、個別目標などにどう落とし込むのかを考えなければならない。羽田空港については、委員案の「首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります」を中心に修文するというのでどうか。個別目標は しますという能動的表現がいいと思う。産業分野については、多くの意見は委員案「モノづくりから未来へ独自の産

業と都市文化を創造する」に集約されている。産業と都市文化を創るというのは大田区らしい。基盤技術がイノベーションを支えているという意見もこれに反映されている。「大田ブランド」は入れるとしても説明文ということになるのではないか。羽田も産業も大田区の特徴的部分であり、バランスを考えるとまちづくり分野は他の地域でもある表現かもしれないが、暮らしの環境を実現するということを行った方がいい。「安全・安心」「水と緑を大事に」は重要と思うので、「水と緑を大事にし、全ての人の安全・安心な暮らしを実現します」ではどうか。潤いについては、「水と緑」で表現されている。商業については「にぎわい」等を入れてもいいが、ごちゃごちゃするので、引き算することとして、まちづくりは平凡だがこんな感じではどうか。

- ・ まちづくり分野では、アートという将来的なもの、「アートな暮らしを実現します」としたらどうか。
- ・ アートに限定するより「潤いのある暮らし」として、「安全・安心で潤いある暮らしを実現します」ではどうか。
- ・ 「人々に潤いと活力を与える」という必要十分なもの以上なもの、プラスが大田区に欲しい。
- ・ 区民との意見交換会で感じたが、地震が起きた際のことを議論していない。安全・安心は大事だ。そういうことができた後のものがアートだと思う。
- ・ 欧州の古い寂れた都市が再生された手法の中にアートがある。そういうことを表現するといいいのではないか。
- ・ ドイツのエムシャーパークでは、鉄鋼の施設を美術館にしたり、エコミュージアム風の展開をしたりしている。「ものづくりから未来へ」に近いのはスペインのビルバオ。ここも鉄の町だが、アートを取り入れながら独自の都市文化を創り上げた。アートに関しては、「ものづくりから未来の独自の都市文化を創造する」というところに入っているのではないか。それよりも、暮らしの中の潤いをどう取り込んでいくか。まちづくり分野の個別目標に入れるのか、あるいは基本目標で入れるのか。
- ・ 「都市文化」にアートが入る。ものづくりの延長上につくる話にしたい。「水と緑」「快適な」という言葉で表れているのではないか。説明文の中でアートについて触れてはどうか。アートはいろいろなものを結ぶ力があると思う。港区と大田区の小学生を比較すると、大田区の子どもはアートに触れる機会が少ない。キャッチフレーズで入れなくてもどこかで入れたい。
- ・ アートという観点は大事だが、どうしても芸術作品やモニュメントを置くという感覚が強い。そうではなくて道や公共施設にデザイン性を持たせるという考え方もある。「快適な」という言葉で表現して、アートは説明文でいい。
- ・ アートも生活に密着するデザインも、両方大事。デザイン的なものは「快適

な」にその要素を入れ、アートによる都市再生という意味合いは、「都市文化」の中に入れるのがいいのではないか。

- ・ 基本目標案のキーワードの多くは個別目標で触れられており、かぶらない方がいい。基本目標について意見を頂きたい。
- ・ 最終的なキャッチフレーズは、我々が最後まで創らなければならないのか。専門家とキャッチボールをする機会があればいいのだが。
- ・ 審議会が出すのは答申なので、それを受けて行政当局と議会で議論されることになる。形式的には、我々が最終確定を出すわけではないが、それを尊重した上で、行政と議会で決める。せっかくの機会なので、これでいこうよ、というところまで持っていてもいいのではないか。専門家が入っても変わるものでもない。技術的なチェックや、形式的な統一などは必要だが、内容はここでの議論が最終と言うことで構わないのではないか。
- ・ 都市の性格や将来を一言で言えるような言葉があるといい。「国際産業交流都市」「国際産業都市」「ものづくり創造都市」といった言葉が出てきているが、大田を特色づけられるかという観点では、どうだろうかと思っている。
- ・ 基本目標を中心に考えたい。「人にやさしい」「安心」は第2・第3部会で使うことになりそうだ。その辺りも考慮してご意見を頂きたい。基本目標の順番は部会の順番で並べるとは限らず、第1部会が最初になるとは限らない。
- ・ 違和感が払拭できないところがある。大田区の工業はこのままでは消滅するばかり。かつての産業構造の中で活かされてきたのであって、放っておけば消えるものだ。たくましさなど、強い表現がないと、工業もそれが支える商業や美しさも成り立たなくなるのではないか。
- ・ 第1部会は未来志向で、「新たな産業をつくる」「羽田空港」といった要素を入れたいので、「世界に向けて未来を育む暮らしと産業を実現するまち」はどうか。これは産業プラスライフスタイルの意味も込めている。「調和」ではなく「実現」という表現を使うことで、自分達で創ることを表現した。
- ・ 「暮らしと産業を実現する」、すなわち「暮らしを実現する」「産業を実現する」という表現は変ではないか。暮らしと産業の『発展』を実現するなど、目的語が必要ではないか。
- ・ 「世界に向けて未来を育む暮らし」「世界に向けて未来を育む産業」を実現するという意味合いである。
- ・ 「実現」という受動的に聞こえる言葉でいいのか。もっと能動的な言葉がいいのではないか。もっとも産業分野で「創造する」という言葉を使っているので、言葉が重複しないようにするのは難しいが。
- ・ 「世界に向けて未来を育む」とはどういうことか、意味が分かりにくい。
- ・ 羽田空港の意味合いを「世界に向けて」で表現した。世界の玄関口は大田だ。

また、大田の経済は今の状況を守っていれば未来があるわけではない。それ
「未来を育む」という積極的・能動的な言葉にした。

- ・ 「世界に向けて」については、「アジアの未来を育む」という方が具体的だが、魅力的な言葉ではない。「世界に向けて未来を育む」とは、何の未来を育むということになるのだろうか。
- ・ 「大田の未来を育む」ということである。
- ・ 「まちの魅力と産業技術が輝く国際産業交流都市」という案は「まち」で終わらないという問題はあるが、「まちの魅力」「産業技術」「国際産業交流都市」という要素が入っており、魅力を感じる。現実的で未来的だと思う。
- ・ 「世界と交流する産業のまち」とすれば「まち」で終わる。
- ・ 「世界に向けて魅力に輝き、暮らしと活力を育むまち」ではどうか。「産業」は工業のイメージが強く、個別目標にも「産業」は入っているので、「活力」としてはどうか。それから、まちに魅力があるということを使った方がいい。まちづくり分野の個別目標は、「水と緑（または「みどり」）を大事にし、すべての人に、安全・安心で潤いのある暮らしを実現します」でどうか。「快適な」は、個人的には使いたくない言葉だ。
- ・ この10年ぐらいで大田区のものづくりの零細企業は3分の1ぐらいになり、現在も毎日数社がなくなっている。そういう状況の中で、大田ブランドが世間に認められている間に、総合的な観点から工業の再生を考えなければならない。ものづくりが衰退すれば商業も都市文化もない。これまでの下請け構造の連関が崩れ、多くの工場が宙に浮いて、消えてしまった。具体的には、コーディネータが中心になって埋もれた技術を見出し、集団としてものをつくるといったことが必要。2代目・3代目経営者は長期経営計画も企業指針も持たず、親の代から受け継いでいるだけ。そういったことが地盤低下につながっている。崩れゆくものづくりを押しとどめ上昇に持って行く、という意味合いを込めて、ものづくりを行政が後押しする、みんなが支えるということ、アグレッシブに表現にしたい。
- ・ 「まちの魅力と技術が輝く 世界と交流する産業のまち」ではどうか。
- ・ 基本目標は端的なものにして、個別目標で解説できればいい。「世界に向けて魅力に輝き、暮らしと活力を育むまち」を基本目標にすれば、その下に個別目標として「安全・安心」と、活力としての国際交流とものづくり・産業が出てくる構造になるので、よいのではないか。
- ・ 「まちの魅力と技術が輝く 世界と交流する産業のまち」を支持したい。大田区は今ものづくりのまちであり、これを強調しておくことが必要。「世界に向けて魅力に輝く」は全部包含されているが、表現的に弱い気がする。
- ・ 産業のまちと言い切るのはいかがかなと思う。「世界と交流し、まちの魅力

と技術が輝くまち」ではどうか。

- ・ 「まち」が二つつく。
- ・ 「まちの魅力」はいい言葉だが、確かにそういう問題がある。「都市」と書いて「まち」と読ませる、ということは可能だろうか。目標はこのあたりで良いだろうか。
- ・ 現行長期計画にも「安心・輝き・潤い」とあり、まちづくりの個別目標「水と緑を大事にし、すべての人に、安全・安心で潤いのある暮らしを実現します」と重複するが、今あるものを継承するという解釈でよいのではないか。基本目標は二つの案を残し、次回に持ち越したい。事務局と座長とで相談し、次回の冒頭でお示しし、その段階で確定したい。次回で専門部会は最後となる予定である。個別目標は今日の案で決めたい。来週明け早々に基本目標について原案を練りたいので、意見があれば事務局まで申し出て頂きたい。
- ・ 説明文はどうするか。
- ・ 事務局案を次回検討する。次回は9時半スタートとしたい。

以上